

今回から「社会人の教科書」という本からです  
**社内の人と飲みに行くな**

社長の出口が繰り返し言っていることがあります。

「大企業の社員は、いつも社内の人間ばかりと飲みに行くんだよ。僕はそれが嫌だったから、めったに社内の人と飲みに行かなかった」

僕は、大企業に勤務した経験がないので、実態はわかりません。でも、その考え方に賛成です。現実問題として、僕はあまり会社の人と飲みに行きません。

仕事が終わってから社内の人とベッタリするより、様々な人たちと付き合う方が成長できると思っているからです。できるだけ、夜は社外の人と飲みに行くように意識して予定を入れています。

今では死語だと思いますが、かつては「飲みニケーション」なる言葉がありました。仕事が終わったあとも会社の上司や先輩と飲みに行き、酒場で語り合う親密な交流こそが、コミュニケーションを図る唯一絶対の手段という発想です。これに付き合わない若手は、疎外感を味わうことになりました。

上司や先輩と仲良くなるためには、飲みに行かないといけないと考える人は多いようですが、心配は無用です。飲まなくても仲良くなれます。じっくり話もできます。

いま流行りのランニングという共通の趣味であれば、一緒にマラソンに挑戦するのです。自転車を持っている先輩がいれば、一緒にツーリングに出掛ければいいのです。共通の趣味を通して時間を共有すれば、飲みに行く以上に仲良くなれるはずです。

たとえば、お酒を飲まない上司がいたとします。「飲みニケーション」では、その上司とは永遠にコミュニケーションが取れません。本当にそうでしょうか。

会社から遠いところに住んでいる上司は、必然的に飲みに行く頻度は少なくなるはずですが、朝を座って通勤したいために、早い時間の電車に乗る人も多いと聞きます。そうした上司とコミュニケーションを取るためには、飲み会ではなくむしろ早い時間に出社している必要があるでしょう。同様に、経営陣も夜は会食などで不在がちですが、朝早い時間であれば在席してのんびり新聞を読んでいることも。いつもより早く出社して、そういう人たちとコミュニケーションを取ってみるのも手でしょう。

毎日同じような顔ぶれで飲みに行っていると、社外の人脈は広がりにくいです。そればかりか、日ごろコミュニケーションが取れない社内の上司との関係が発展する可能性がさえ逃してしまいます。

朝のコミュニケーションと夜のコミュニケーション。こんなふうに考えるだけで、社内外の人間関係がグンと広がります。

筆者は、なぜ社内の人と飲みに行かないと言っていますか？

( )

「飲みニケーション」とは何ですか？

( )

上司や先輩と仲良くなるにはどうすればいいですか？

( )